

# 基盤環境委員会

## 行政視察の報告

7月28日～30日の3日間、次の調査研究項目について視察を実施しました。

- ファシリティマネジメント推進基本方針について（香川県高松市）
- 防災・減災対策について（京都府京都市）
- ごみ処理施設における民間活力の活用について（兵庫県姫路市）

### ファシリティマネジメント推進基本方針について 高松市

#### ◎ 策定の目的

ファシリティマネジメントとは、土地・建物・設備を対象として、経営的な視点から設備投資や管理運営を行うことにより、施設にかかる経費の最小限化や施設効用の最大化を図ろうとする取り組みである。高松市は、市町合併に伴い、多くの公共施設を保有することとなったため、今後の少子高齢化の進展や人口減少社会を見据え、公共施設の有効活用や長期にわたる適切な維持管理を目的に、平成24年9月に策定した。

#### ◎ 「ファシリティマネジメント」の効果

- 1 施設の集約化・用途変更等により、市有施設の最適化・減量化・維持管理費の削減を図る。
- 2 施設の売却等により、コスト削減と歳入の

増加を図る。

- 3 長寿命化により、施設整備に係るコストの低減を図る。

- 4 統一的な維持管理により、維持管理費の削減を図る。

#### ◎ 公開施設評価

「施設仕分け」の実施  
市民目線での施設の適正化を図るため、事業仕分けの施設版である公開施設評価を実施した。

大きく、市民への広報も



高松市での視察の様子

効果もあり、今後の課題等を市民と共有できた。先送りできない大きな課題に危機感を持って取り組んでおり、本市においても早急な対応の必要性を再認識した。

- 3 備蓄品の充実とし、この方針に基づき、観光・商工などの関係事業者や寺院、神社、地元組織等を含めた地域全体での防災の仕組みづくりと定め、取り組

#### 防災・減災対策について 京都市

#### ◎ 京都モデルの構築

京都市は、年間5千万人の観光客が訪れる国際観光都市であり、大規模災害時における帰宅困難者には多くの観光客が含まれるため、観光客に特化した対策が求められる。そこで、京都モデルとしての帰宅困難者対策の方針を、

1 正しい情報の伝達  
2 安全な場所での一時滞留（ターミナルへの集中を避ける）

- 3 備蓄品の充実とし、この方針に基づき、観光・商工などの関係事業者や寺院、神社、地元組織等を含めた地域全体での防災の仕組みづくりと定め、取り組

みが進められている。



京都モデルの誘導看板

#### ◎ 全国初「大雨特別警報」発令

平成25年9月の台風18号では、記録的な大雨により、各地で大きな被害が発生した。京都府には全国で初めて「大雨特別警報」が発令されたが、これまでの防災対策により、人的被害を最小限にとどめることができた。

本市でも8月に豪雨災害が発生したが、今回の災害対応を総括するとともに、今後も本市の特性に応じた防災対策をスピード感をもって進める必要がある。

### 「ごみ処理施設における民間活力の活用」について 姫路市

#### ◎ 民間活力により大幅コスト削減

平成22年に完成した「ごみ処理施設「エコパークあぼし」」は、徹底した分別により収集した可燃ごみ及び粗大ごみの焼却に、シャフト炉式ガス化溶融炉を採用するとともに、残存物としてスラグやメタルの資源化に努めている。

施設の設計・施工・管理運営に、PFIのひとつである、DBO（デザイン・ビルト・オペレーション）方式を導入し、民間の経営や技術力を活用したことにより、行政が実施するより、大幅な経費削減ができた。

本市においても今後様々な施設の建設や管理において、積極的に民間活力の導入をすすめるべきである。